

クビアカツヤカミキリの防除マニュアルについて

クビアカツヤカミキリの日本国内への侵入がはじめて確認されたのは2011年の埼玉県深谷市でした。それから10年以上が経過し、今や本種は日本の本州・四国の多くの場所でサクラ、ウメ、モモなどのバラ科樹木を加害しています。クビアカツヤカミキリの幼虫は樹皮下を食い荒らし、多くの幼虫が木に入り込むとその木は枯死してしまいます。そのため、外来種の中でも経済的・環境的影響が甚大な特定外来生物に指定されました。外来種の対策は今までいなかった生物を扱うため最初は手探りで行われ、効果的な防除手法の開発が求められていました。侵入当初、本種はサクラの害虫として認識されていましたが、果樹での被害が年々深刻化しています。

私共は農研機構生研支援センター イノベーション創出強化研究推進事業 30023C「サクラ・モモ・ウメ等バラ科樹木を加害する外来種クビアカツヤカミキリの防除法の開発(2018～2021年度)」において、本種の防除手法の開発に取り組んでまいりました。クビアカツヤカミキリコンソーシアムを構成する12の団体(事業完了時には組織改編により11団体)が協力して、4年間で本種の生態を解明し、有効な薬剤等を示し、被害管理に必要なツールを提供することができました。その成果をとりまとめ、クビアカツヤカミキリ被害に直面している方々に届けるために本防除マニュアルを作成しました。

長年この虫を研究してきた経験から断言できますが、クビアカツヤカミキリは大変にたちが悪い害虫です。知らない間に新たな地域へと分布を拡げて木を食い荒らし、気が付いたときにはどこから手を付けたらいいのかという位に果樹園や街路樹の木が衰弱してしまうことがしばしばです。しかし、被害の初期から丁寧に防除をすると、その土地のモモやサクラを守ることができます。本マニュアルを、果樹生産者、緑地管理者、普及関係者、自治体担当者等、多くの方々にご活用いただき、被害封じ込めへと繋がると幸いです。

クビアカツヤカミキリコンソーシアムを代表して
国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所 加賀谷悦子